素敵廃校探索記

～a nostalgic Fantasy～

いらっしゃいませ。ここからは廃校探索の旅へとあなたをいざないます。
どうぞ、ごゆるりとご見学くださいませ。

それは5月の始めのこと… ふと通りかかったある道で見つけた場所。
早速アリス(←)と連絡をとり、探索に出かけることに！ 決行は、五月十三日木曜日。
しかしその日は、作為的とも思える大雨…… 前後の日は晴れていたと言うのに…(泣)
仕方がないので延期です。

しかし、その後も続くぐずついた天気。 雨が上がったらスグに行こう！
と、急にでも休めるように仕事の都合も付けて、祈りながら何度も天気予報を確認。
祈り通じてか、翌月曜日は十七日。
曇り空ながら雨は上がり、言うまでもなく出発です！！！
その旅の軌跡をここでは、余すことなく書き記させていただきます。

三日前から敵(かたき)のようにレーダーとその予想図を直前まで何度も確認し、午前九時、決行決定。出発はその一時間後。先ずはアリス宅へとお迎えに行きます。助手席に彼女を乗せ、念のためにと一度地図を取りに家によって、ようやく北へ向かって出発です。

急ぐたびではないのでスピードもゆっくりめ。のんびり走ること約三十分。最初の見所です。
そこは、古い石積みの美しい棚田が道の左右に広がる昭和を感じる田舎な風景。急斜面なので、峠道を登りながら見上げ、時に見下ろし、これで茅葺(かやぶき)屋根の家があったらきっと最高v 今の季節は田植えの頃。植わったばかりの苗と泥田がまた雰囲気出してます♪

…あッ！？

一時間も走った頃、二人がほぼ同時に声を出しました。
そう。見つけてしまったんです…… 目的の場所ではないのですが、廃校を！
慌てて近くの産直市場の駐車場に入り、向かいました。(笑)

そう、寄り道でも何でもありなのですから☆

通り過ぎたときにどうもそんな気はしてたんですが、近づいて見るとやっぱり。
どこかの企業さんが現在も使用されておりました。
なのでこうして遠くから眺めるだけで精一杯。さすがに侵入はためらわれますよ…(汗)

体育館のあの廃れ具合といい、つるや周辺の雑草の伸び具合といい、、、
ああ。近くまで行きたかったなぁ。。。

でももっと入りたかったのは、やっぱり校舎です。
窓のかんじだとか、玄関の雰囲気だとか、もっと間近で堪能したかった〜〜
教室がそのまま残ってたりなんかしたら(黒板とか机とか)、最高に素敵なんですけどそうもいきませんよねー(しくしく)

そんな寄り道が火をつけたように、今にして見れば思われます。

車に戻り、目的地へと向かうために先へと進み始めた私たち。飛び交う会話はなんともまにあっくな妄想に満ちた会話でした(爆)
いったいどんなモノであるか。その一端を抜粋してご紹介(笑)

ア ； (……前略……) やっぱ中学生が一番いいよねー
つ ； え〜？ 私は高校生んがいいよぉー
ア ； そお？ 田舎ッたらなんか中学生って感じじゃない？
つ ； ェ！？
…ん〜、そうか。だったら良いかもっ♪ でも3年生限定ね。なんかさ、進路だ受験だ何だっていうあの甘酸っぱい感じ？ いいかもv
ア ； あっ♪ いいねぇ☆ でも2年生もよくない？ 部活とか何とかさ。
つ ； うん。それもなかなか。
ア ； 制服はやっぱりセーラーよね♪
つ ； そうそう。んで髪の毛は二つに結うかおさげか——
ア ； 絶対おさげっ！！
つ ； あはは。 そんでさ、男の子は学ランに坊主かな〜
ア ； あぁ〜〜っ！ 良い！ ボウズッ！！
つ ； あとさ、学制帽も必須よねっ！ んでさぁ、(……後略……)

……というね、もうこれがドンドン盛り上がるんですよー(笑)
「女の子は文学少女」とか、「都会から来た病弱な転校生(男の子)」とか、周りの景色なんて見て見てないです。
完全に流れてます(笑)
あ、ちゃんと前は見てましたよーッ！
脳内妄想は炸裂でしたが、道も線も信号も、対向車も周りの車もちゃんと見えてましたよーッ！
(↑…って、明らかに注意力散漫になっていると思われ;)

阿呆な妄想に夢膨らませながら、我らは行くのでありました。

そうやって会話をしていたからというよりは、もう少し先だと思っていたから。これは言い訳ではなく事実です。

あっっっ！！！

またもや声を上げ、今度は慌てて左折。左側が広くなってるとこにけっこういきなり突入＆急停車；
すぐ後ろに車いなくて良かった…；

少しあとからくる後続車をやり過ごし、バックして切り返していざ！！

体育館あとだか、もともと倉庫なのだかという建物の前の広い場所に車を停めて… さァ……！！！

突　入　！

嗚呼ッvvvv たまんないっス！！ ぬかるみもこの際許せます。それもまた素敵要因！ 雨上がりの曇り空。良い雰囲気です～～～vvv

アリスと比べてみてください！！
この樹の立派なこと！！！

うんと見上げなくては見えないたかーい木。
その下にはサビた遊具が眠っているのでした……

校庭に居並ぶはこれらの大きな樹。 大きさだけでなく、その見た目の枝ぶりや蔓の巻き具合、、、
自然の造形のなんと美しく素晴らしいことでしょう！！ そう広くもない校庭ですが、ものすごい壮観ですw

さあいよいよ。
ゆっくりと校舎に向かいます！（どきどき）

そして……

僕らはくぐる。その扉を…

残念ながら、中は覗くので精一杯。
玄関入ってスグのところは、しっかり造ってある為か、ほんの少し、上がって中を見る事は出来ました。けれど、奥へは廊下がもう腐って落ちていて、残っている板も危なくて、教室も同様に入るのはさすがに危なそうでした ;
そしてもうひとつ悲しかったのは、なんだかゴミが沢山ある事。塵芥の類や割れた窓ガラスならそれもまた好しって感じもするんですが、大きなコンプレッサのようなものや発泡スチロール、包装紙やビニール、金属の筐体？に何故か紅白の布を巻いた丸太…… 果ては廃校後も地域の集まりか何かで使っていたのでしょうか、演歌歌手らしき人の古いポスタァも貼ってあったり (苦笑)
あーあ。奥までしっかり入って見たかったなぁっ！！！

…と、諦め切れないので、もう一箇所外から見て入れそうだったところがあったのでそちらに行ってみました。
結果は同じです。土間はコンクリートで何の用途なのか良く分からないくぼみ。一段高くなって木の床の屋内。そこから先は何やら良く分からない端材が山積みで、やはり廊下は落ちて腐っていて…。 入口からすぐ左手に至っては、屋根ごと落ちていて見るも無残…。
もう動く事のない配電盤。止まった電気メーターには蠟蜘 (カマキリ) の赤ちゃんがいました。もともと在ったのか後から付けたのか階段もあり、見上げると倉庫か物置か、三畳ほどの部屋？もありました。

↑正面玄関を入ってすぐ。
右手の教室に向かって。

↑もう一箇所の入口から。
屋根の落ちたところ。

↑反対側に回り込んで。
落ちた廊下。

それでも諦めきれない。何とか裏に回り込もうと試みるも、この (←) 有様。
とてもじゃないですが、入っていけません;

でも！ あきらめないーーーっ！

というわけで、校舎を反対側から回り込んでみました。
狭いあぜ道を通り抜けていくと、なんと！！

は・い・れ・ま・し・た・〜・〜・v・v・v

着いたのは先ず、厨 (くりや)。 まず目に入ったのは、このかまど。(→) 使える状況ではないのですが、なんなんでしょう、この不思議とそそる廃れ具合 (苦笑) 思わずパシャリです。
奥には埃をかぶった戸棚やビン、いつからあるのかお椀や箸。水の出ない流しに取り残された時間たち。
落ちた窓ガラスを知らず踏んで、大きな音も二人で出しちゃいました… (笑)

そこから、さらに奥にいけました。
反対側から見たときには草や木や蔓で入れそうもなかったあの場所にです！！

そこは、校舎につながる渡り廊下になっていて、厨の隣はお便所でした。
校舎の中も覗けたのですが、表から見たときとやはり同じ。廊下は落ちていて入る事は出来ませんでした。

廃校探索はここで終わり。 時間はお昼どき。 エ！？ たったそれだけしかここを見てないの！？ まだまだ見足りないし撮り足りないし、日を改めて何度か足を運びたい衝動に駆られつつも、この時点でもうおなかいっぱい胸いっぱいww
さあ。小雨に降られつつも次の目的地にゴゥです☆

そこは、学校にほど近い場所にある廃屋。
通りすがりに見たときにも思ったのですが、
近づいてみてもやはり大きい！！

しかし、我々はその門をくぐる前に、
川とそこに架かる橋に釘付けにされてしまったのでした…… (笑)
古びた木の欄干。地面はもともとは木だったのでしょうか？
だったら心底良かったですけど、
打ってあったコンクリートのひび割れから草が生えていたので、
それはそれで良し！ (笑)
車が通れるかどうか？ 微妙なところがまたそそる (笑)
川の雰囲気も良いし、廃屋に続く橋としては申し分なく素敵でしたvvv

前日の雨で良い感じに増水していたこの橋が架かってる川。なぜだか七夕 (天の川？) を思わされました。 →

しかし……

それは、廃屋ではなかったのです……！！！

古くはありましたが、立派な構えの門から中を覗いて見ると、意外にも手入れされた庭が見えました。
もしや人が住んでいるのでは？ そう思いながらもそっと門をくぐろうとすると、

ぴーんぽーん。

センサーに反応して、普通にチャイムが鳴りました。間違いなくそこは誰かの家です。住んでます；
こうなったら、家人に出てきてもらって、『お家見せてくださーいvvv』と、真っ向からお願いして堂々と入れてもらおう！！
よくもまぁ、開き直ったもんですよ (爆) そう考えて待つことしばし。 誰も出てきません。 お留守でしょうか。
仕方がないので、またも中に入るのは諦めました。
塀の外からなら良くは見えないけれど何とか見えそうかなー？ とあぜ道を回り込んでみました。

と。

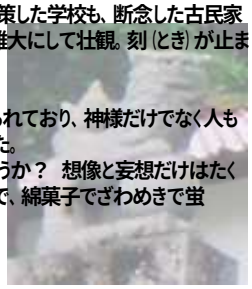
ア ； きゃーへびーー！！
つ ； うえー！？ きゃーー！？ どこどこぉーーーー！！！？？？ うああーーー！！！

突然の声と足に絡みついた何かにパニくる私 (汗) 落ち着いて見ればヘビは塀のそばをにょろにょろと去って行くところ。私の足には、枯れ草や枯れ枝がまとわりついていただけ。ヘビが視界にいなかったため、まぢで噛まれたかと思った (滝汗)
幸いシマヘビ (毒がないヘビ) だったようですが、でもやっぱり嫌いです。苦手です。

さすがに目の高さの塀では中の様子は上半分しか見えません。写真を撮ろうにもうまく撮れる自信もなかったし、ちょっと盗撮チックなんでここは遠慮 (我慢)。 遠く離れた道から撮らせて頂きました。
しかし気になる……。 あのレンガの塔のようなものは何？ 人が居られるのだとしたら、古そうなあの家の部分で生活なさっているの？ それとも、何か違った事に使ってらっしゃるの？ えらく広い敷地ですけど、昔の郷氏さんか何かなのですか？
こちらも出来ればまた出直してみたいなと思いつつ、人様の家ですからね〜…。 うーん ；

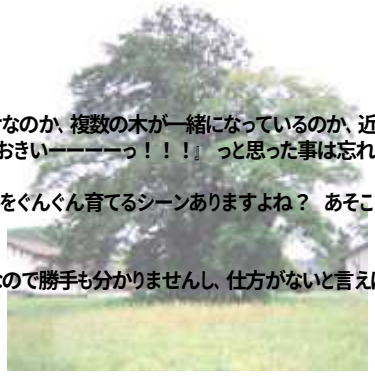
学校から見えた、山の上の神社。
お次はそこへ、誘われるように向かいました。
明治～大正のころに立てられた鳥居をくぐり、石段を上ります。我が家のそばの神社にも大正中期ごろに立てられた鳥居があるのですが、それとこれとはまるで様子が違います。
ここの鳥居は、苔生し、石の質の所為か風化もしているようで、異様に古びて見えました。ひとつ岩（石）から出来た物ではなく、継ぎ目がありました。作ったときからなのか鳥居を移した際に分けたのかは分かりませんが…。

ふもとと頂上付近の石段はわりと古いもののよう。中ほどは新しく直したようで、コンクリートでした。
上りきり、境内から見下ろす景色はとても綺麗でした。さきに散策した学校も、断念した古民家も、遠くの山も、近くの大きな木々も、田んぼも道も何もかもが、雄大にして壮観。刻（とき）が止まったかのような、胸一杯になれる景色でした。



社は、奥に二つあり、神様に舞台を見せる向きで神楽殿が造られており、神様だけでなく人もちゃんと見れるように、ゆったりとした石段の席も設けてありました。
祭りの日に。 ここに来たならばどんな光景が見られるのでしょうか？ 想像と妄想だけはたくましく広がり、浴衣で提灯で御囃子で、出店でお面で金魚すくいで、綿菓子でざわめきで蛍で……

……はぅ。



ここいらで最後に訪れた場所。 それがこの木でした。

件（くだん）の古民家の敷地内おぼしき場所に立っていたこの木。一本だけなのか、複数の木が一緒になっているのか、近くまで行けなかったので定かではないのですが、神社から見下ろして 『でぇかぁ～～～っ！！！ おおきいーーーーっ！！！』 っと思った事は忘れません。

そう、まるで『となりのトトロ』の中で深夜、トトロたちとさつきとめいが木のみをぐんぐん育てるシーンありますよね？ あそこで育ってた木のようで思わず 『夢だけど、夢じゃなかった～！』 と叫びたい気分（笑）

どうしてどれもこれも近くで見れないのでしょうね…（くすん） 他所の土地なので勝手も分かりませんし、仕方がないと言えばそうなのですが、う～ん！ 近くに行きたいッ！！

っていうか、この場合登りたいかも（笑）

本当に。これだけでも大満足で、もう帰っちゃっても良いと言えば良かったのですが、この時点で未だ午後一時半。これで帰っちゃぁもったいないってもんですよっ！ それも、ただ来た道を帰るなどとは！！！
ここからもう少し進めば、私が少し知っている場所に行くので、そこの素敵スポットにも足を伸ばしちゃいましょう♪ そして違う道で帰りましょう☆
作戦会議はものの五分。こうして我らは先へと進んだのでした（笑）

――そこは、まっすぐに延びる道路にこれまたまっすぐ交差する単線の線路。
小さな小さな無人駅。駅の前だけは、すれ違うために複線になっています。
後日分かった事なので写真ではちょっと切れているんですが、駅の前にはにはもう一本線路があり、ホームが在ったようです。右の写真の駅がお分かりでしょうか？　画面で言うと右側に、向かい合うようにホームの石積みが残っており、その前に草に埋もれた線路がありました。おそらく、上りと下りで向かい合うようにあったものをひとつに統合した事で、反対側に線路を作りなおしたのだろうと思われます。
ラッシュ時で三十分に一本程度。その他の時間には一～二時間に一本程度しか通らないので、当然と言えば当然、電車には遇いませんでした。
したがって堂々と線路内を歩かせていただきました。(ほんの少しですけど)
この駅は、とにかく周りに花を沢山植えてあり、天気と季節によってはとても素敵な景色になります。秋には、さらにその周りに広がる田んぼの稲穂が一面黄金色になり、本当に素敵です！！

そうそう、もうひとつ。　ここいらでは、『電車』とはいいません。まだみんな『汽車』って言うんですよ？

時刻はそろそろお茶の時間v　僕等はお茶じゃなくって作戦会議。　議題は、『どこを通って帰るか？』
もう一箇所、古墳群へとより道もしかけたんですが、案外そこが広く時間が足りないということで帰る事にしました。

ア ； 線路のそばを通って帰りたいな♪

ええ、ええ。ならばそうしましょう。
さきの線路を街へと向かって併走しながらの帰路となりました。
のんびりと車を走らせ、この辺りでは珍しい小麦畑を横目にし、右に左に線路を追いながらも一度も『汽車』に遇う事はなく、線路とはお別れする場所まで来てしまいました。
看板が分かりにくく、少し行き過ぎて引き返すという旅ならではの一興もありつつも峠越え開始です。
狭い道では対向車が来ないことを祈りつつ、旧道が交差しているところでは昔からの癖でそれをも目で追いつつ、ついに山道にさしかかりました。
ぐねぐねと上り、そして下り始めて暫く行くと…　ふと、谷の切れ間になにやら砕石(砂)場らしき場所が見え隠れ。RPGかなにかのファンタジィな世界眼鏡が直ちに装着され、妄想宴開始です(笑)　一度車を停めて降り、谷を覗き、吸い込まれそうになり、るんるんでまた発車。
その山道を抜けて吃驚！　道はその採石(砂？)場の間を通り抜けているではないですかっ！！

ブラボォッッ！！！　(笑)

大きな道に出、某施設が入村無料という文字が目に入ると、速攻次に行く場所決定☆
あとは平和に帰ってまいりました。午後五時着。予定通りでした。

これにて、今回の旅は終了。　次回の旅も決行されるでしょうが、どんな旅になるか、またこんな紀行文を書くかは総て、神のみぞ知る…　であります。

趣(おもしろ)い旅だったでしょうか？　ご感想など御座いましたら、どうぞお気軽にお声をかけてくださいませ。　有難く頂戴いたします♪　もちろん、お返事もしっかりさせていただきます☆

長らくのお付き合い、どうも有難う御座居ました。

此処で終点です。またのご来訪をお待ちしております。

Powered by FC2.com